

コスモス 5月号

第70巻 第5号

◆宮柁ニカレンダー（38）五月の歌

慰霊祭の中ほどにして供へ置くパイナップル缶に夕陽射し来も
歌集『山西省』

一首前には「五月^{さつきじん}尽の地に沁むひかり眼に耐へて
ゆとりあればぞ君^まらを祀る」が置かれている。戦いと戦いの合間、戦死した仲間を祀るひととき。慰霊祭が進み、徐々に陽が傾いてきた。あかあかと射す夕陽が物や人の影を濃く、深くする。柁二の見つめる「パイナップル缶」のあかるい哀しさ。

この文章を書いている三月十四日、ウクライナ軍当局は、ロシア軍に包囲され攻撃を受けている南東部の都市マリウポリで民間人の死者が二千五百人を超えたと発表した。今も戦中なのだ。（小島なお）